

会員のひろば

題字：森 和恵

◇「座間事件の背景と対策を考える」という記事がありました。日頃から、自分自身もSNSの等を利用して、社会福祉学科の学生と共感する部分が多くあり、自分のSNSに対する思いについて、考えさせられました。

今後は、夜間中学または高校等の生徒へのインタビュウ等、学校に対する考え等をきいてみたい。

ホームページのトップ画面に色々なテーマが見やすくまとめられていてよいと思います。フォーラムの会員として、パステルアート寺子屋に場所を使わせて頂いていますが、本当に助かっています。どうもありがとうございます。

(高崎市・二口孝絵)



二口さんのパステルアート作品 「桜」

◇町内で神社総代という係をして三年になる。信心は浅いし作業も不熱心で御利益などある筈もない。ところがここにきて、幸運に恵まれた。

フォーラムの教育相談部会の打合せが終わろうとした時、中村幸生先生がおみえになったのである。ご自身の短歌の背景についての原稿をわざわざ届けてくださったのだ。居合わせたメンバーの前で先生は原稿を朗読された。私はすぐ隣の特等席。一分もしないうちに時空を超えて私は木造のオンボロ校舎に戻っていた。淡々としていながら滑らかな語り口、絶妙な息つきと間。高校二年の、あの世界史の授業がありありと再現されていた。私は「そうだ、そうだった」と頷いていた。ある時、指名されて教科書を読んだ。出てきた「黄砂」をオウサと読んだ。すると先生は「うん、それも発音できますね。でもコウサでいいんじゃないですか」と笑顔でおっしゃった。

当時生意気盛りの生徒の間では、教科書通りのつまらない授業を嫌い、先生を質問攻めでタジタジとさせる風潮があった。勿論、中村先生の知的レベルは遥かな高みにあり且つ興味深い授業だったのでそんな気配は皆無だった。鮮明に覚えているのはテカメロン第二日の第五話である。「九死に一生を得て大金持ちになった男の話をしましょうか」とおっしゃった。

これが頗る面白かった。

教師になってから生徒にこの話をしたいと思っただ。だが、どう苦しんでも先生のあの面白さは出ない。今思うに、先生の語りは深い体験と広い学識に裏打ちされたもので一朝一夕に真似できるものではなかった。

同級生が次々に鬼籍に入っていく中で、先生の温顔に接し、懐かしい声に触れることができ、望外の幸せであった。中村先生には一日でも長く生きて頂きたいと思う。

来月の一日、また神社の清掃だ。今日の幸運を胸に、心をこめて作業をしようと思っている。

(高崎市・金井秀行)



脱線が楽しかった中村先生の世界史